（管理規則第３条実施要領　別紙様式）

２０２２年度（令和４年度）学校評価自己評価表

向丘　中学校区	校番	福山市立　向丘中　学校
	最終更新日	2023 年（令和５年）２月９日

Ⅰ　福山市

ミッション　　福山に愛着と誇りを持ち，変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン　　「福山１００ＮＥＮ教育」の基本理念のもと，各中学校区・学校が「２１世紀型“スキル＆倫理観”」の育成に向けた特色ある教育課程を編成し，日々の授業を中心として評価・改善を進めながら，子どもたちの確かな学びを実現している。

Ⅱ　中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容

- 高校生，社会人になったとき，正しい判断を基に，主体性，自己理解，課題発見，解決力が実行できるようにしてほしい。
- 正解のない問いや事柄を楽しいと思えるようになってほしい。
- 1on1 は継続して取り組むことで，信頼関係の醸成に寄与すると思う。

児童生徒の現状

- 行事や各取組において，生徒がやってみたいとアイディアを出し，実現する姿が見られる。
- 学習に粘り強く取り組む生徒が多くなっている。
- 様々な状況により，不登校になっている児童生徒がいる。

育成する力 (21 世紀型“スキル&倫理観”)	主体性，自己理解，課題発見・解決力
めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	人とのかかわり合いを大切にし，学ぶ意欲を持ち，自分の生き方を主体的に考える子ども
中学校区として統一した取組等	○自校の取組を深く理解し，自主性・主体性を発揮し，「子ども主体の学び」の実現に向けて取り組む。 ○各校の実践や研究について交流を深め，職員の主体性の向上や意識改革のきっかけとする。 ○お互いの具体的な実践の交流から課題意識，自己研鑽の意欲を持ち，個人的に授業参観，放課後の相談等，教職員が起点となる研修を推進する。

Ⅲ　自　校

ミッション

自校や郷土に愛着と誇りを持ち，他者とのかかわり合いを大切にし，自分の生き方を主体的に考え，粘り強く実践する生徒の育成

学校教育目標

『自ら気づき，考え，創造し，貢献する生徒の育成』

育成する力 (21 世紀型“スキル&倫理観”)	主体性	課題発見・解決力	自己肯定感
めざす子ども像	夢と志を持ち，自ら考え，意欲的に学ぶ生徒	自己を認識し，自分の人生を選択し，表現することができる生徒	人を大切にし，他者との良好な人間関係を築くことのできる生徒

現　状

＜児童生徒＞
○「明るく 自由に 伸びやかに」の風土のもと，学校生活を送っている。
○教員との 1on1 ミーティングで，生徒との信頼関係を積み重ねてきている。
○学校や学級への貢献意識は低く，自己有用感が十分に高まってはいない。
○学級での話し合い活動の時間が十分に持てず，自分の考えを深めたり，広げたりする経験が弱い。
＜授業＞
○単元を通しての問いや見方・考え方，活用方法などを探究する BIGWHY により，生徒の主体的な学びの姿が見られるようになってきている。
○定期考査前には補習教室を実施したり，タブレット端末を活用したりして個々の学びの状況に応じた学習が展開できた。
○全国学力・学習状況調査の正答率は市平均より高いが，主体的・対話的で深い学びに関する意識は低い。

研究	テーマ	「1on1」「BIGWHY」「特活の充実」に取り組み，子ども主体的な学びづくりを行う
	内容等	・「主体性・自己理解」を育むために，１on１ミーティングに取り組む。 ・「課題発見・解決力」を省くむために，興味や疑問を探求し表現する BIGWHY を実践する。 ・「自己肯定感」を高めるために，特活を通して，協働的な学びの場を充実させる。
めざす授業の姿		「子ども主体の学びづくり」 ○生徒も教師も一緒になって，「一生懸命」授業に取り組んでいる。＜基礎基本の定着＞ ○見方・考え方を働かせながら，「BIGWHY」で思考，表現している。＜主体的な学び＞ ○指導と評価を見直し，生徒に力をつける授業実践を行う。＜新しい入試制度＞

Ⅳ　目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立　　向丘中　　学校

年目	中期経営目標	重点	分類	短期経営目標	目標達成に向けた取組	評価指標 ●校区共通	中間評価（10月1日） □指標に係る取組状況	プロセス評価	達成評価	改善方策	最終評価（2月末） □指標に係る取組状況 ◎短期(中期)経営目標の達成状況	プロセス評価	達成評価	総合評価	改善方策
3	『学びが面白い！』の実現	★	継続	授業改善に取り組み，子ども主体の学びを実現する。	・授業で学んだことへの興味や疑問を探求し表現する「BIG WHY」の時間を各単元，題材において設定する。	●生徒アンケート「授業で考えることは面白い」と感じている生徒の肯定回答を前年度以上にする。（前年度70%）	「BIGWHY」の時間を各教科で工夫を凝らして実践した。生徒アンケートの結果は，肯定的評価 72%であった。	4	4	「BIGWHY」の時間設定を継続し，お互いの授業観察をもとに子ども主体の学びを実現する。	「BIGWHY」の時間を設定するとともに，生徒の疑問をもとに授業を展開し，子ども主体の学びの実現を図った。生徒アンケートの結果，肯定的評価は，68%であった。	4	3	3	「BIGWHY」週間を設定し，学級を超えた探究的な学びを実施する。
			新規	基礎的学力の確かな定着とともに，発展・活用的な課題へ挑戦する意欲を養う。	・入試問題や発展・活用的な課題へ挑戦する機会を単元テスト，定期テスト等において設定する。	・挑戦の機会を設定した問題において，無回答の生徒を４０%以下にする。	入試問題や活用を意識した問題を設定し，無回答の生徒は全ての教科で 30%未満となり，定期考査においては，粘り強く取り組む生徒が多い。	4	4	引き続き入試問題や活用を意識した問題の難易度を上げ，課題への挑戦する意欲を養う。	入試問題や活用を意識した問題の難易度を上げ実施した。2年の理科や社会で30%を超えたが，40%未満であり，粘り強く取り組む姿が見られた。	4	4	4	定期考査の範囲を３週間前から発表し，生徒に学習の調整を図るよう促すとともに，家庭学習の定着を図る。
			継続	個別最適な学びの実現を図り，生徒の学ぶ力を高める。	・ICT端末を活用し，生徒自身が課題発見・課題解決に取り組む授業実践を行う。	・教員アンケート「生徒は，授業の中で課題解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいると思う」肯定回答	ＩＣＴ端末の活用とともに，生徒が自分で学習の調整を図る機会を創出した。教員アンケート肯定的回答 90%	3	4	３週間前試験発表を活用し，互いの学習方法を知る機会を創出し，生徒の学ぶ力を高める。	ICT 端末を活用した単元テストを継続して実施した。教員アンケート肯定的回答は，79%であった。	4	3	3	各種学力調査の分析結果から，それぞれに合った学びを紹介するとともに，授業改善を図る。
3	『自律・貢献』できる生徒の育成	★	継続	生徒の自己肯定感を育み，自己実現に向けた意欲を向上させる。	・生徒が主体となる「特別活動」を通して，協働的な学びの場を充実させる。	・生徒アンケート「向丘中学校での学校生活は安心して生活ができ，楽しいです」肯定回答を前年度以上にする。（前年度82%）	週１回，特活実行委員会を開催し，学校全体としての特別活動の方向性について検討し，実践した。7 月生徒アンケート肯定的回答 80%。	4	3	生徒がつくる学校行事等の実践により，達成感を感じ，自己肯定感を高める。	生徒がつくる学校行事の実践を行い，3年生を中心に，達成感を感じることができた。生徒アンケート肯定的回答 83%。	4	4	4	「向中の主張」の継続により，新たな学校文化の創出に取り組む。

			継続	生徒一人一人を大切にした個別支援を行う。	・1on１を毎月実施し，個別支援の充実を図る。	●新たな不登校生徒0人 （前年度８人）	1on1 を毎月実施した。 新たな不登校生徒２人。	３	３	アセスや学力調査の結果等を活用し，支援の充実を図る。1on1 での内容を学年での交流し，生徒の理解を深める。	アセスや学力調査の結果を活用し，1on1 を実践した。新たな不登校生徒５人。	４	３	３	アセスの活用と1on1 を継続して行い，生徒理解を深める。
３	学校組織力の向上	★	継続	働き方改革を推進する。	・校務の分担や行事の見直しを図り，業務改善を図る。	●月の在校等時間45時間以内 前年度以上 （74.7%）	４月～８月の在校等時間 45 時間以内達成率は59%であった。	２	２	保護者への案内文はすぐメール，学校ホームページ，Google Classroom 等を一層活用し，業務の効率化を図る。	校務補助員や学校支援員と連携し，業務の効率化を図った。 ４月～１月の在校時間 45 時間以内達成率は 58.5%であった。	３	２	２	校務分担を見直すとともに ICT を効果的に活用し，業務改善を図る。また，一斉退校日の定時退校率を上げる取組を推進する。
			継続	教職員が主体性を発揮し，やってみたい実践を実現できる学校づくりを推進する。	・各分掌や特別活動実行委員会において，実態と課題を踏まえたアイディアを出し合い，実践する。	・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定回答昨年度以上 （前年度50%）	教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」肯定回答52.9%	５	４	引き続き，特活実行委員会を定期的に開催し，生徒実態や学校の現状，課題に基づいた新たな取組を全体に提案できるようにする。	特活実行員会で出た意見が実現するなど，教職員が主体性を発揮することができた。教職員アンケート「仕事にやりがい…」肯定的回答79%であった。	５	５	５	特活実行員会を継続し，アイディアを共有し，実現を図る。

［プロセス評価の評価基準］

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ，状況の変化，問題が生じた際は，協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず，状況の変化，問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

［達成評価の評価基準］

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し，十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し，望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し，一定の成果をあげた。
2	目標を下回り，成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り，成果が認められなかった。

［総合評価の評価基準］

評点	評価基準	
5	１００％以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	８０％以上１００％未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	６０％以上８０％未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	４０％以上６０％未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	４０％未満の達成度	目標を達成できなかった。